

単元「みんなで旅する奥の細道」の実践をめぐって

山本伸子

I 提案にあたって

1 本校の紹介

本校は、小豆島にある県立高校のうちの一枚であり、生徒数は約七百名、十八クラスからなる香川県では中規模の高校である。三年生は普通科、商業科三クラスずつからなるが、一、二年生は普通科六クラスとなり、本年度は学科改編の二年目に当たる。今年度の二年生からは進路によって、人文科学、自然科学、経営情報、観光ビジネス、生活科学の五つの系に分かれており、総合選択制カリキュラムが組まれている。小豆島内の四中学校の生徒のほとんど全員が進学してきており、生徒、教師間の人間関係は良好であり、素直で純朴な生徒が多く落ち着いた雰囲気である。卒業生の約八十二パーセントの者が上級学校に進学しており、四年制大学進学者は約四十五パーセントであり、年々就職希望者が減少する傾向がある。私は現在本校に赴任して三年目に当たり、進路指導を担当している。

2 国語の授業をめぐっての問題点

○学習、読書習慣について

学習の習慣がっていない。
予習や復習でどんなことをしなければならぬのかわかっていない。

家庭学習時間の不足。(調査発表中であつても全校生平均一五〇分程度、一時間をきるクラスも一学年に二クラスはある。)平成十一年度から実施している朝の十分間読書(一、二年生は小豆島にゆかりのある作品を全員で読んでいる。)は、定着してきており、休憩時間や自習時間に読書に取り組んでいる姿を見かける。

教師に対して、単語だけで用件や質問に対する答えを言おうとするため、会話が成り立たないことがある。

○授業について

自主的にわからない語を辞書で引いたり、教師の話のメモをとったりすることがなく、教師の指示がないと、何もしようとしない生徒がほとんどである。

授業中板書を丸写しにするだけで、教師の発問について考えない生徒がいる。

一年生の成績下位の生徒の中に、辞書が引けない、あるいは引いたことがないという生徒がいる。

漢字の練習、古典文法の暗記などの反復練習をしなくなった。生徒同士の意見交換や対話の場面がうまく成立しない。

授業数の減少により、授業の進度が確保できない。

○教師、学校側の問題について

教師の側の年間指導計画がはつきりしない。

少子化による大学入試の易化と専門学校進学希望者の増加のため、大学合格のためにがんばって勉強しようというムードが希薄になった。

学校が行事中心にやっていると生徒を引きつけられなくなっており、学習の場というより楽しさを重視した生活の場となりつつあるように感じられる。

クラス内での人間関係はおおむね良好だが、都会の学校並みに不登校や教室に入れないなどの生徒が、一学年に二人ずつくらいいる。その生徒達が、学習の場面においても、孤立している。

3 学年当初の国語学習調査の結果（一年生二組四十一名の場合）

4月の最初の授業で実施

資料① 国語学習調査結果

1 予習、復習ではどんなことをしていますか。

○現代文へ予習✓していなかった十三人。本文を読む十八人。

語句の意味調べ二十人。漢字十二人。

△復習✓していなかった十三人。本文を読む三人。漢字十三人。ノートの見直し九人。問題集八人。テスト勉強のみ一人。感想を書く二人。

○古文へ予習✓していなかった二十人。本文を写す十一人。訳してみる五人。語句の意味調べ十一人。大意をつかむ三人。

本文を読む六人。△復習✓していなかった二十二二人。文法や読みの点検一人。ノートの見直し六人。語句を暗記四人。問題集四人。読みの練習三人。本文を写す一人。

○漢文へ予習✓していなかった二十一一人。本文を写す九人。書き下し文を書く二人。訳してみる五人。語句の意味調べ五人。本文を読む五人。大意をつかむ一人。△復習✓していなかった十九人。ノートの見直し六人。意味の確認三人。語句を暗記三人。問題集四人。書き下し文を書く一人。本文を書く一人。本文を読む三人。

2 読書について

○月平均読書量 0冊十一人。一冊十二人。二冊七人。三冊五人。五冊三人。七冊二人。十冊一人。

○好みのジャンル

ノンフィクション二人。歴史物。ダニエル・キイス。シドニー・シェルダン。推理小説五人。小説五人。ファンタジー。怪談。赤毛のアン。友情物。伝記。平安時代のことを書いてあるもの。絵本。いろいろ三人。物語。詩二人。椎名誠。

3 中心として学習している参考書、問題集

使っていない十五人。古文の問題集。進研ゼミ中学講座二人。代々木ゼミ。学校指定の物五人。旺文社。教科書ガイド二人。通信添削二人。塾の本。

4 国語の学習に際して困っていること。

国語力のつけ方がわからない。古文、漢文の意味がつかめない。文章の理解はできても答えが書けない二人。いろいろ。漫画しか読まない。辞書が重い。

中学の時の先生の質問がややこしかった。どのように勉強していったらよいかわからない二人。問題集の選び方。

5 その他 要望、質問、意見

問題集はした方がいいのですか。どんな問題集を使うのがよいか。現代文が苦手なのでポイントを教えて。あまり当てないで。

Ⅱ 単元「みんなで旅する奥の細道」の教材と

指導の流れ

- 1 対象 普通科一年生（三年間のベ六クラス）
- 2 科目 国語Ⅰ（五単位のうち古文は二単位）

3 指導目標

(1) 班ごとに課題に取り組み、生徒同士で役割分担を決め、意見交換を活発にすることによって、協力して課題をやり遂げる態度を身につけさせる。

(2) 語句の意味調べ、口語訳、文法的な説明など、古文の授業の下調べとして必要な内容を各自で自主的にできるようにさせる。

(3) 興味を持ったテーマについて、適切な参考文献を求め、それに即して自分の言葉で説明できるようにさせる。

(4) 助詞、助動詞の既習事項のまとめと確認をさせる。

4 取り上げた章段

序、日光、松島、平泉、立石寺、象潟、市振

取り上げた理由

① 序、平泉、立石寺は教科書教材。

② 四十人一クラスなので、一グループあたりの人数が適切。

③ 有名な章段で、参考文献や参考書が手近にある。

④ 文法的に平易で、口語訳しやすい。

⑤ 全体の文章量が適切。

⑥ 地域的に距離がある。

5 指導の流れ

第一 時 研究テーマの決定と役割分担の決定。

第二、三時 自分の分担箇所を進める。

第四、五時 各班での資料プリント作り。

第六 時 一、二班の発表と質疑応答。

第七時 三、四班の発表と質疑応答。

第八時 五、六班の発表と質疑応答。

第九時 七班の発表と質疑応答。まとめ。

資料③ 生徒に配布した「奥の細道」班学習についてのプリントの内容

「奥の細道」班学習について

○原文がついているプリントに書き込むこと。

1 下の段 口語訳

2 上の段 助詞、助動詞の横に線を引いて、助詞は種類を、助動詞には意味、基本形、活用形を書き込むこと。

○班で独自に作るプリントに書き込むこと。

1 地図

2 その土地の紹介

3 俳句の鑑賞（季語、切れ字、情景、作者の心情など。）

4 本文にふまえられている古語、故事など。

5 難解語句の説明

6 難しいところの文法的説明や品詞分解

7 班で考えたユニークな研究テーマを必ず一つは入れること。

○計画

第一時 研究テーマの決定と役割分担の決定。

第二、三時 自分の分担箇所を進める。

第四、五時 各班での資料プリント作り。

第六時 一、二班の発表と質疑応答。

第七時 三、四班の発表と質疑応答。

第八時 五、六班の発表と質疑応答。

第九時 七班の発表と質疑応答。まとめ。

資料④ 「奥の細道」評価カードの内容

「奥の細道」評価カード（ ）組（ ）番 氏名（ ）
所属班（ ） 担当箇所（ ）

1 自分の班の発表内容、発表態度、質疑応答についてよかつた点と反省すべき点をまとめなさい。

よかつた点

反省すべき点

2 一番よかつたと思う班の番号と担当箇所を書きなさい。

（ ）班 担当箇所（ ）

3 よかつたと思う理由を説明しなさい。

資料⑤ 「みんなで旅する奥の細道」の班発表の手順

① 本文を朗読する。

② 口語訳を読む。

③ 研究した事柄を担当者が順番に説明する。

④ 質疑応答（司会者を班で一人決めておく。）

⑤ 担当者、参考文献の確認。

* 資料は授業が始まる前に配布しておくこと。

* 座席は担当班ごと。

Ⅲ 生徒の学習状況と問題点（一年二組の場合）

資料⑥ 一年二組四班「平泉」の発表資料

NO.4

中尊寺

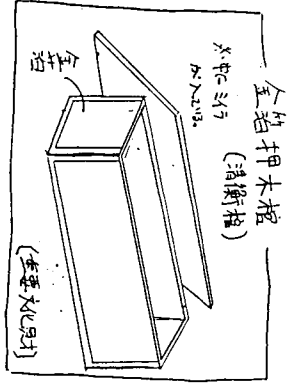
鎌倉三代が治めていた時、これは「方丈あり科」にて寺の
 奥し之の礎を山にて千束の寺院は位置づけられた。

金色堂

現在金色堂は解体修理(昭和七九)の土新築堂が授けられ
 化財として保存。

金色に輝くから金色堂存のては又、聽極したる之
 望に之を阿弥陀如来が金色菩薩の光を照輝かせ
 いるから。

。佛像名壇十一体計三十三体が金色一圓堂



。清浄の棺外他、棺内にも金工の十二
 箇所を見られ、初代(清浄)の時代が最も
 盛んでいたと考えられる。

※ミナラ → 法華經の多宝入定

の教文に「凡、地土一極 (經堂知法の由体)
 案が実現するにこそ願 (此の妙法蓮生の
 心、これか) 実現するにこそ見届けたから
 往生するため。

※ 阿室女(果)

銀葉が法華經を授けた時、阿室女を
 証明するために地中の阿室女を召出さし、
 阿室女の白の座と半分、銀葉に授けた
 といふ如き

図に「突然ですが……」難解箇所の方法の分析 + 細かい解説

- ・ 一室二室にあり、「自身を所存志を致しては行けい」
 「二日月の如く」といふ事がある。
- ・ ナシ聖め
 「とし聖子」(二)の法聖形
 聖性は「とし聖子」といふ事がある。
- ・ ナシ聖
 となして生、となして死
- ・ 表出すべし
 「ナシ(四)は即ち中から入り出し、
 世に出るといふこと」
- ・ 此處一明の義となる。
 中尊寺を建てた日かどもそそまかのことだ
 中尊寺の跡は守れりてぞ、てま、作。
- ・ 阿室女が動きて
 「よしは法華經を授けて、口懸にありて、
 「教」を「の」に教へて考へては、行けい。
- ・ 時の移り去り
 「時次國字に入ると本」の意、具體的時空間を
 表して、この下は行けい。

NO.6

～藤原三代の栄華のあとに散れ、旅人は

「歴史・祖人」にたどり～

平泉(中興寺、毛越寺、無量光院) → 『平泉文化史余論』
が知りたい

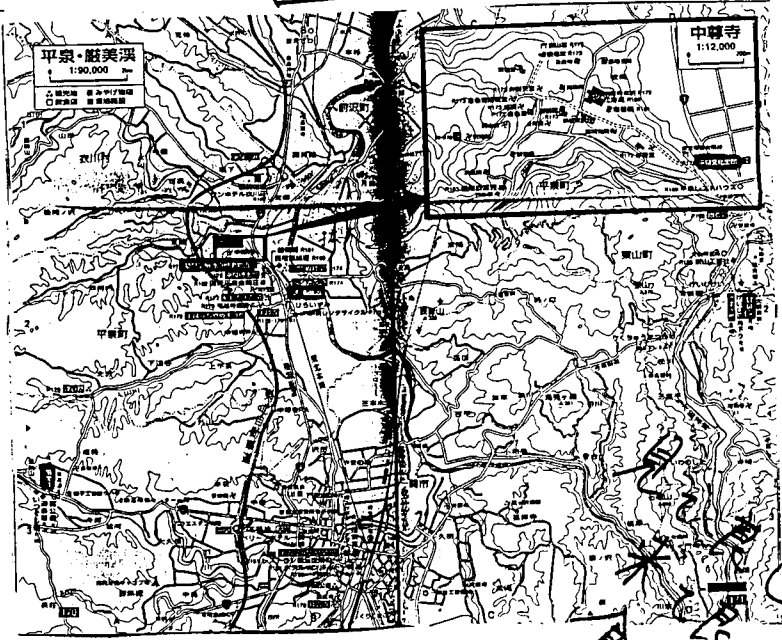
藤原三代の歴史 (⇒ 史跡 踏切) が知りたい

歴史は、いつ、どこが、誰が、どうしたのか
最良の、視界、没を、訪ねて
自然の造形美を堪能し、
目と心とを休めよう

平泉

原庄 (1200)
JR平泉駅 徒歩 10分 (12/100)
8:30～18:30 休 日 休
TEL 022/661-2030

名物の「栗やぶ、1500円」
はソバとソバ菓子に1100円
ソバ刺身、ソバそば (300円)
純かけそばと出たり。
このソバに、この料理の、食の
主店の主人から聞くと、一興
の、口上が終わると「はし
の、間、料理には、はしつけの
は、我様しよう。



感想

「何の勘が、いつのTは? と、何村、下町は、何処か、
成、平泉は歴史のロマンを感じる街だと思ふ (土居)

・ JTB「旅と回、引用

平泉
へ
く

資料⑦ 一年二組一〜七班の評価カードのまとめ(その項目の研究を担当した生徒の評価カードのよかった点と反省すべき点を項目ごとに表にした。)

資料⑦

一年二組一班「序」

調査・発表内容 口語訳	自己評価 よかった点	自己評価 反省すべき点
動詞・助動詞	品詞分解、口語訳の発表の形がよかったです。他の発表内容も中学生で習った部分だけに音に理解してもらいやすかったです。質疑応答はあまり聞きませんでしたが、質問がなかったので深みに入らなかつた。	もう少しして手を止めた態度をとりなかつた。また分組の仕方かますかつたのか、作っているとき暇な人がいたのはちょっと悔しかったです。研究テーマは時間をかけてもよいとおもしろい物に工夫すればよかったと後の班の発表を見て思いました。
3 俳句の鑑賞 情景、作者の心情、句解	いろいろな担当場所の人からそれとそれくらいどころまで聞いてもらいました。	本をそのままプリントした形になつてしまひ、説明している部分も、何となく、そのための部分があった。そのため、質問の答えも不十分なものになつてしまひ、迷惑をかけた。
5 難解動詞の説明 その語の成、別し、江上、宗室、道祖神、表八句、発句	自分で個人的に満足している箇所だが、表八句について調べているのが楽しかったというのがあった。でも、発表の時、それについてうまく説明することできなかった。	全てであえて言うのなら、まず質問されたら即座に回答できなかった。また、自由研究でも満足していた方がいい加減なものを作つてしまひ、悔やむ。
4 本文にみえられていない古語、故事など 「香夜楼」印に對するの古語	協力できなかった。班の自由テーマ決めが大変だった。	発表が音だけではなつて、質問の受け答えもなかった。危機感を抱くのが遅かった。
7 班で考えたユニークな研究テーマの比較		

一年二組二班「日光」

調査・発表内容 口語訳	自己評価 よかった点	自己評価 反省すべき点
動詞・助動詞	自分語で語れてきた。発表する時、声もよく聞かされたので、スムーズに話した。	質問に対する答え方が相手にとってわかりやすくない。特に漢の説明はミスだらけで反省ならけた。自分自身も理解しているのをつい、自分不足になつてしまつた。
2 その土地の紹介 日光東照宮、三渓園、聖明門、日光、男体山、熊鷹	自分語で語れてきた。発表する時、声もよく聞かされたので、スムーズに話した。	質問に対する答え方が相手にとってわかりやすくない。特に漢の説明はミスだらけで反省ならけた。自分自身も理解しているのをつい、自分不足になつてしまつた。
3 俳句の鑑賞 情景、作者の心情、句解	本を買つたり、向うも図書館に行つたりして、たくさん本を読んだので、どの説小定説もか、新しい考えなのかわかるとだけ判断した。	他の人の分組に目を通していなかつたので、ミスを見つけたら、にみんまに託つてしまつたため、結構さういふところがあつて、発表してから気がついた。早く見えておくれなかつた。
6 難しいところの文法的説明、品詞分解	時間をかけてよく調べられていた。発表の順番を覚えて、わかりやすかつた。手をききおこさず、あつた。	発表するとき、たくさん聞いてもらつたので、深い内容になつた。また、自由研究担当場所の人に聞いた興味深いものを調べられた。
3 俳句の鑑賞 情景、作者の心情、句解	文脈をたくさん調べてかんばつた。また、深い内容になつた。また、自由研究担当場所の人に聞いた興味深いものを調べられた。	発表するとき、たくさん聞いてもらつたので、深い内容になつた。また、自由研究担当場所の人に聞いた興味深いものを調べられた。
7 班で考えたユニークな研究テーマの比較	自由研究がよく調べられていた。	質問や細かいところまで、手が届かず、質問された時などに満足説明ができなかつた。

一年一組三班「松島」

<p>講義 発表内容 口語訳 品詞分解</p>	<p>自己評価 良かった点 おのおのがよく質疑応答されていてよかったと思う。質疑応答では何を答までで時間がかかったが、答えられなかった問題がなかったのによかった。</p>	<p>自己評価 反省すべき点 他の班から多数の質問が来て、時間を浪費したので、質問の数を減らして発表するときに自分も理解されるであろう箇所を自分も理解していく。スムーズに発表が進められるようにする。発表態度において、声がかさなかったり、漢字の読みかきかたがわからなかったりしていたのでそこを改善したい。</p>
<p>助詞 助動詞 2.その土地の地名 松島、松島、五大寺、道島が磯</p>	<p>質疑応答の時は一人で答えるのではなく、協力して考えて質問に答えた。</p>	<p>褒められよくなった。発表をするのを頭の中でまわると整理できていた。資料が少なかつた。もっと意気込んで準備しておくべきだった。</p>
<p>3.俳句の鑑賞 松島や卯二舟をなればはじむす 春語、切句切れ、心情、情景</p>	<p>自由研究は自由作文 自由研究は天気や色味連珠の行動を自由作文から抜き出して取り入れて、かたまりの短かいものまで取り入れて、わかりやすい文章を書く。</p>	<p>打ち合わせ不足。 質問に対する返答ができていない。質問に対しての返答ができていない。打ち合わせ不足。</p>
<p>5.難解語句の説明 卯、満庭満、酒、舟を入れて、其人の顔を照す、昔、医師の別荘の跡、草の殖しづかにすみなし</p>	<p>自由研究は自由作文 自由研究は天気や色味連珠の行動を自由作文から抜き出して取り入れて、かたまりの短かいものまで取り入れて、わかりやすい文章を書く。</p>	<p>打ち合わせ不足。 質問に対する返答ができていない。質問に対しての返答ができていない。打ち合わせ不足。</p>
<p>7.班で考えた二、三のな研究テーマ 各級地帯と海を日数で天気と出 各級地帯と海を日数で天気と出 各級地帯と海を日数で天気と出</p>	<p>自由研究は自由作文 自由研究は天気や色味連珠の行動を自由作文から抜き出して取り入れて、かたまりの短かいものまで取り入れて、わかりやすい文章を書く。</p>	<p>打ち合わせ不足。 質問に対する返答ができていない。質問に対しての返答ができていない。打ち合わせ不足。</p>

一年一組四班「平泉」

<p>講義 発表内容 口語訳 品詞分解</p>	<p>自己評価 良かった点 藤原氏のことはよく調べられていた。ところやわからないうちで調べた。</p>	<p>自己評価 反省すべき点 漢字の読み方を間違えていたところやわからないうちで調べた。</p>
-----------------------------	---	--

<p>3.難解語句の説明 卯、満庭満、酒、舟を入れて、其人の顔を照す、昔、医師の別荘の跡、草の殖しづかにすみなし</p>	<p>自由研究は自由作文 自由研究は天気や色味連珠の行動を自由作文から抜き出して取り入れて、かたまりの短かいものまで取り入れて、わかりやすい文章を書く。</p>	<p>打ち合わせ不足。 質問に対する返答ができていない。質問に対しての返答ができていない。打ち合わせ不足。</p>
<p>4.本文に記されている地形、地名 松島、松島、五大寺、道島が磯</p>	<p>自由研究は自由作文 自由研究は天気や色味連珠の行動を自由作文から抜き出して取り入れて、かたまりの短かいものまで取り入れて、わかりやすい文章を書く。</p>	<p>打ち合わせ不足。 質問に対する返答ができていない。質問に対しての返答ができていない。打ち合わせ不足。</p>
<p>5.難解語句の説明 卯、満庭満、酒、舟を入れて、其人の顔を照す、昔、医師の別荘の跡、草の殖しづかにすみなし</p>	<p>自由研究は自由作文 自由研究は天気や色味連珠の行動を自由作文から抜き出して取り入れて、かたまりの短かいものまで取り入れて、わかりやすい文章を書く。</p>	<p>打ち合わせ不足。 質問に対する返答ができていない。質問に対しての返答ができていない。打ち合わせ不足。</p>
<p>6.難しいところの文法的説明や品詞分解 1.理解しきれないところ、書き直して、理由を添えて、書き直す。原因を、理由を添えて、書き直す。</p>	<p>自由研究は自由作文 自由研究は天気や色味連珠の行動を自由作文から抜き出して取り入れて、かたまりの短かいものまで取り入れて、わかりやすい文章を書く。</p>	<p>打ち合わせ不足。 質問に対する返答ができていない。質問に対しての返答ができていない。打ち合わせ不足。</p>
<p>7.班で考えた二、三のな研究テーマ 各級地帯と海を日数で天気と出 各級地帯と海を日数で天気と出 各級地帯と海を日数で天気と出</p>	<p>自由研究は自由作文 自由研究は天気や色味連珠の行動を自由作文から抜き出して取り入れて、かたまりの短かいものまで取り入れて、わかりやすい文章を書く。</p>	<p>打ち合わせ不足。 質問に対する返答ができていない。質問に対しての返答ができていない。打ち合わせ不足。</p>

一年一組五班「立石寺」

調査、発表内容	口語訳、語訳、分解	自己評価、よかつた点	自分で助動詞の意味と口語訳とあるから調べられていたと思う。調べたことについて資料が少なかったがよかった。
3 俳句の高貴	3 俳句の高貴	自己評価、反省すべき点	自分で助動詞の意味と口語訳と少し異なっていたところをうまく説明できなかったのか。一番反省すべき点だった。
7 班で考えたユニークな研究テーマ	7 班で考えたユニークな研究テーマ	自己評価、よかつた点	俳句、西施、俳句「ねず」、江山水陸の風光、散をつくして、子をむむ、いさ、龍平にも高なる、とらひ、江上、むやむの園、柿、地勢、4 本太刀かまえられている言語、古文に慣習して、雨もまた新なりおまの苦菜、花の上へくマ「宗の組道」と芭蕉(芭蕉がどのような心境と態度で奥の細道の次にてたのか。)
5 難解語句の説明	5 難解語句の説明	自己評価、よかつた点	文法的な間違いがなくてよかった。難解語句にうまく答えられた。調べたこと、資料があるのに時間がかかりすぎたこと。芭蕉の字を間違えた。
6 難しいところの文法的説明や語訳	6 難しいところの文法的説明や語訳	自己評価、反省すべき点	文法、語釈、通釈といった段階をよんで説明できたので、わかりやすかったと思う。巨賢大師をよく調べられたと思う。
2 その土地の紹介	2 その土地の紹介	自己評価、よかつた点	非常にスムーズに話が進んだ。質問を返せることがあまりなかった。つまり、まちがいが少ないか、準備に慣れてきたという感じだ。
4 俳句の鑑賞	4 俳句の鑑賞	自己評価、反省すべき点	土地の紹介で漢字の読み間違いがあって、発表する前にもう少し打ち合わせをすればよかった。
3 俳句の鑑賞	3 俳句の鑑賞	自己評価、よかつた点	土地の紹介で漢字の読み間違いがあって、発表している間前でもう少し点。
調査、発表内容	調査、発表内容	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
口語訳、助詞、助動詞	口語訳、助詞、助動詞	自己評価、反省すべき点	プリント作成が速かったので、プリントに発表してくることでよかった。また順番をどうするか、指で指図するところがあった。
地図	地図	自己評価、反省すべき点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
3 俳句の鑑賞	3 俳句の鑑賞	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
3 俳句の鑑賞	3 俳句の鑑賞	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。

一年一組六班「象潟」

一年一組七班「市振」

調査、発表内容	口語訳、助詞、助動詞	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
5 難解語句の説明	5 難解語句の説明	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
7 班で考えたユニークな研究テーマ	7 班で考えたユニークな研究テーマ	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
5 難解語句の説明	5 難解語句の説明	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
6 難しいところの文法的説明や語訳	6 難しいところの文法的説明や語訳	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
2 その土地の紹介	2 その土地の紹介	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
4 俳句の鑑賞	4 俳句の鑑賞	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
3 俳句の鑑賞	3 俳句の鑑賞	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
調査、発表内容	調査、発表内容	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
口語訳、助詞、助動詞	口語訳、助詞、助動詞	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
地図	地図	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
3 俳句の鑑賞	3 俳句の鑑賞	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。
3 俳句の鑑賞	3 俳句の鑑賞	自己評価、よかつた点	質疑応答で反響することなく行えられた点。

3 俳句の発書 「一年に逢女も寝たり寝と月」 の「逢」の紹介	口語訳、語釈がきちんとできていた。	自由研究のテーマがよくなかったかなあと思った。自分の担当のところあまり興がわかれていなかった。参考文獻を運ぶときにも気をつけなければいけないことがあると思った。質問に答えられなかった。
4 本文にみえられている古語 故事など 西行一世の中を歌ふまでこそか たからめ彼の府りを惜しむむれ な		
2 その土地の紹介 視不知子不知、市販	難しい所などよく調べていた。全体的によかった。てきはき運められた。いい所で発表していた。	調べが不十分なところがあった。記者席はまずかった。聞いていただいている方にタメ口をしてしまった。もっとメリハリをつければいいかな。もう少し発表ができたと思う。
7 班で考えたユニークな研究テーマ 芭蕉芭蕉子についての考察	てきは発表できた。そつなくこなせた。大事なこと忘れずまらんとできた。	

資料⑧ 一年二組一〜七班の発表後の生徒同士の質疑応答の内容

一年二組一班「序」の質疑応答の内容

- Q 春立てるの訳はなぜ「春が始まり」なのか。
- A 立春だから。
- Q 古人はなぜ四人か。
- A ?
- Q 「去年の秋」は何年のことか。
- A 千六百八十八年
- Q なぜ何も手につかなかったほどだったのに、すぐ出発で
しなかつたのか。
- A 旅立ちの準備のため
- Q 「転変の相」とはどういうことか。
- A ?

Q 裏日記とは何か。

A 曾良の旅日記のこと。

一年二組二班「日光」の質疑応答の内容

Q 口語訳の「遠慮が多くて」はおかしい。

A 「神である東照宮にあれこれ筆を費やすのはおそれ多い」と訂正。

Q 口語訳の「眺め」のままはいけない。

A 「景色をともしする」では訳にならない。次の時間に口語訳の誤りがありに多いので訂正版を出す。

Q 「歌枕」とは何。

A ?

Q 「風狂の世界」とは何。

A 「俗世を捨てて風雅の道に生きること。」

一年二組三班「松島」の質疑応答の内容

Q 「愛す」はサ変だとすれば、連体形は「愛する」ではないのか。

A サ行四段との混用ではないか。

Q 「愛すがごとし」の文法的説明は。

A 「ごとし」は比況の助動詞で連体形または、「の」「が」に接続する。

Q 「わざいや」の「に」は助動詞ではないのか。

A 格助詞の「に」の下に係助詞「や」で疑問の意。(指導者) 断定の助動詞「なり」の連用形「に」

Q 「はらばっている」とは何か。

- A はらばうようだ。
- Q 「旅寝」とはどういうことか。
- A 旅先で寝ること。
- Q 「なせるわざ」を敬語の訳にするのはおかしい。
- A 「したしわざ」が正しい。神がしたことなので敬語にした。
- Q 「初音を喜ばれる因縁の鳥」の意味。
- A 「初音」はその年初めての鳴き声。「因縁」はゆかりがある、縁が深い。
- Q 「縁が深い」とは「縁起がよい」ことか。
- A ゆかりがあること。
- Q 「鶴の字、魂にして」とはどういうことか。
- A 俳句の中心で他の字と代えられない。
- Q 「名所らしい思付き」とあるが、どこに思いつきがあるのか。
- A ?
- Q 「深遠なる」の意味は。
- A 内容が深くて容易に計り知れないこと
- Q 島の東側にある曾良の句碑は何か。
- A 「松島や鶴に身をかれほととぎす」
- Q 青龍山瑞巖寺は一つのお寺か。
- A 一つの寺。
- Q 雲居禪師と瑞巖寺の関係は。
- A 雲居禪師は寺の創始者。
- Q 図中の②のマークは何。

- A 名所古跡。
- Q 自由研究の出来事は何で調べたか。
- A 曾良日記からの抜粋。
- 一年「組四班」「平泉」の質疑応答の内容
- Q 「うちにして」の「して」は接続助詞では。
- A そうです。
- Q 「見えたり」の「たり」は完了の助動詞では。
- A 完了の助動詞の終止形。
- Q 口語訳の「その功名もわずかで」の意味は。
- A 功名を立てたのもわずかの間のことで。
- Q 口語訳「義房」はおかしい。
- A 「兼房」の間違い。
- Q 兼房は何の戦をしていたのか。
- A 兼房は義経の家来で泰衡に追われたとき戦った。
- Q 邯鄲とは何か。
- A 中国の地名。
- Q 「印象的実感」というのは具体的に言うとうとういうことか。
- A 「草木深」は自然の悠久さの象徴であったのが、「草青みたり」で眼前の風景となっていることとか。
- Q 「入定」の読み。
- A にゅうじょう。
- Q 「多宝如来が肉体をとどめて永生の死にある相」とは、どういうこと。
- A 永遠に生きるための仮の死という姿。

一年二組五班「立石寺」の質疑応答の内容

Q 「ニイニイゼミ」というのが定説か。

A そうです。

Q 「慈覚大師」というのはどんな人。

A ?

Q 「桁」「梁」はどんな意味。

A ?

一年二組六班「象潟」の質疑応答の内容

Q 本文の「その朝」というが口語訳で「翌日」となったのはなぜか。

A 「朝」で早朝と翌朝の意味がある。「翌日」を「翌朝」に直して欲しい。

Q 本文の「江にあり」の「に」は断定の助動詞か。

A 場所を表す格助詞

Q こんなきれいなところなのになぜ恨んでいるようなのか。

A 当時の景色を芭蕉が見て、象潟は美人が泣いているような暗くもった様子に感じた。

(教師訂正)

「さしいづるほどに」の「に」は格助詞

「よまれし」の「れ」は受け身の助動詞

「ばかり」は「副助詞」

「悩ます」は「悩ます」

Q 語句の説明で、「西施は美人だったので、病んで胸を押さえ眉をひそめ眼を閉じて憂えに沈んでいる西施を連想し

た。」と言う文はおかしい。

A 「を連想した」を「も美しく見えた」に直す。

Q 「ねぶる」の意味は。

A ねむる、目を閉じる

Q 「芭蕉」はおかしい。

A 「芭蕉」に直す。

Q 「托鉢行脚」とは何か。

A 仏道修行の一種。

Q 「孤」とは何か。

A イネ科の多年草。乞食のような格好でもよいと言うこと。

Q 「風流な乞食」とは何か。

A 隠世者のこと。

一年二組七班「市振」の質疑応答の内容

Q 本文の「といひ捨て」の「と」は格助詞では。

A そうです。

Q 「寝たる」の「寝」の活用形は。

A 連用形。

Q 「遊女」の品詞は。

A 名詞。

Q 「憂さ」とは何か。

A 「うさ」を漢字で書くところなる。

Q 「難解語句」の所の組成というのは何か。

A どうやって言葉ができたかということ。

Q 北国一の難所をやつと越えた疲れが、なぜ遊女と結びつ

くのか。

A ?

Q 「萩を遊女に、月を芭蕉におぼろげにたとえている」とあるが、なぜそういえるのか。

A 「萩」は女性である遊女の象徴、「月」は隠者の象徴であり、芭蕉を指している。

Q 「厭ふ」の意味は。

A 嫌いだと思う。避ける。

Q 西行の歌に対する返歌「家を出づる人とし聞けば仮の宿心とむなと思ふばかりぞ」の訳は。

A 世を捨てた人だと聞いているのでこのような憂き世の仮の宿に心をとどめなさるなと思うばかりのことです。

「仮の宿」には「西行に貸さなかつた一夜の宿」と「現世」の二つの意味がかかっている。

Q 芭蕉忍者説の説明の文章は山川君（担当者）が書いたのか。

A ダイヤモンド社「奥の細道」（品川嘉也）からの引用。

IV まとめと問題点

○班ごとの発表が充実しており、当初の予定とは異なり一班の発表だけで一時間を使ってしまうことがほとんどであった。

○生徒の反省にもあるように、役割分担をした上でなおかつお互いに内容をチェックしあった班は発表内容に間違いが少なかった。

た。

○ただ調べるだけでなく、その内容を理解しておかなければ発表にならないことを生徒に理解させることができた。

○発表の段取りや説明するときの言葉を、前もって班の中で相談しておかなければならないことを生徒に理解させることができた。

○自由研究テーマでは、それぞれの場所で芭蕉がどんな心情であったか、どんな気持ちで俳句を作ったかというような内容の深い理解につながるテーマを期待していたが、このような質のテーマは生徒の自主性にゆだねるには難しく、教師の誘導を必要とすることがわかった。

○評価については、資料④の評価カードの

2 一番よかったと思う班の番号と担当箇所を書きなさい。

3 よかったと思う理由を説明しなさい。

の部分の生徒の評価と、教師の三段階評価との総合点で班毎に評価した。班の構成員の個人評価をどのようにするかが今後の課題である。

（香川県立土庄高等学校）